

様式 1

研究報告書（平成 25 年度）

提出者 乾 順子

提出年月日 2014 年 3 月 31 日

【本ユニットにおける研究テーマ】

和文 家庭と労働市場における性別分業の実態と規定要因の計量的分析

英文 Quantitative analysis of the determinants and the situation of gender division of labor in the labor market and household

【研究のねらいと目的】（600 字程度）

本研究のねらいは、女性と男性が労働市場で働くのか働かないのか、どのような就業形態で働くのか、家庭における家事分担はどうなっているのかを計量的に明らかにし、アジア各国を中心とした国際比較を行い、ジェンダー平等指数（経済活動の参加、教育機会、政治等の意思決定への参画）と性別分業（家事分担や労働市場における職域分離）の関連や地域間の差異・共通点を明らかにすることである。

これまで、ワーク・ライフ・バランスや性別分業についての研究を行ってきた。特に女性の職業経歴をパターン化し、ライフコース上の 1 時点の意識とその後の職業経歴の関連、人生後期の人生満足感との関連を実証的に明らかにしたり、男女がともにワーク・ライフ・バランスを実現するための道筋を、労働市場と家庭における労働の配分と意識の関連によって明らかにするという論文を執筆してきた。また、博士論文では、労働市場と家庭における性別分業を後期マルクス主義フェミニズムの理論と計量分析の接合によって説明するという試みを行った。KUASU においては、国内データの分析だけではなく、アジア各国を中心とした国際比較を行い、ジェンダー平等指数（経済活動の参加、教育機会、政治等の意思決定への参画）と家事分担の関連や地域間の差異・共通点を明らかにしたい。また、各国の研究者との交流を通じて相互理解を深めていきたいと考えている。

【研究業績】 学会報告・論文など

●学会等報告

Inui Junko, 2013, "Men's Housework in Japan," The society for the study of Social Problems 63rd Annual Meeting, August 10, 2013 NYC, USA.

乾順子, 2013, 「女性就業の継時的変化」, 第 8 回 NFRJ08 パネル研究会, 於南山大学, 2013 年 8 月 23 日.

●論文

乾順子, 2014, 「既婚男性からみた夫婦の家事分担—家父長制・資本制概念と計量研究の接合」『大阪大学大学院人間科学研究科紀要』 40: 95-110.

【成果の概要】（800字程度）

今年度は、研究のねらいを実現するために、日本国内を調査対象とした全国家族調査（NFRJ）のデータ等を用いた分析を行い、学会報告や論文執筆を行った。

学会発表を行ったのは、日本の夫婦の家事分担の規定要因を有配偶女性のデータを用いて時点間比較を行ったものである。2003年と2008年のデータを比較分析した結果、2003年においては女性が正規就業をしていると無職や非正規の場合よりも夫の家事分担割合が有意に増加するが、妻自身の性別役割分業意識は有意な効果を持っていなかった。つまり、2003年では意識ではなく働き方が夫婦との家事分担を規定していたが、2008年になると規定要因は変化していた。働き方と性別役割分業意識の交互作用が有意となり、妻が正規もしくは非正規で働き、かつリベラルな性別役割分業意識をもつと夫婦の家事分担が平等化するということが明らかとなった。つまり、2008年では妻が就業している場合に自身の性別役割分業意識を家事分担に反映させやすくなったといえる。

また、研究報告をおこなった「女性就業の継時的変化」では、NFRJのパネルデータを用いて、女性が就業するか否かの規定要因の分析を行った。これまで妻の就業にはダグラス＝有沢法則がみられるということが知られてきたが、近年ではその法則が成立しなくなったという研究結果も出てきている。そこで夫の収入とその変動、さらに、家族要因や学歴、本人のジェンダーに関する意識を独立変数として女性が働くか否かの分析を行ったところ、夫の収入が高いことは妻の就業確率を低下させ、末子年齢も女性の就業にまだ影響を与えているということが明らかとなった。今後分析モデルや変数の精査を行い、学会報告・論文につなげていく。

最後に論文についてであるが、既婚男性からみた夫婦の家事分担の規定要因についての分析を行った。その際、マルクス主義フェミニストのソコロフの女性労働の弁証法的関係の図式を用い、フェミニズム理論、家父長制・資本制概念と計量分業の接合の試みを行った。妻が正規雇用で就業している場合に夫の性別役割分業意識が夫の家事分担割合を左右するということが明らかとなった。

【通信欄】